



※防災ニュースは新町の自治会加入の全世帯に配布しています。

【備蓄とは？】



備蓄・備蓄と言うけどいったい“何をどれだけ”？
過去の災害(東日本大震災)のデータを参考に考える！



(東日本大震災のデータより)

インフラ等の項目	復旧日数と影響		主な備え
電気 電気・ガス・水道はストップ!	平均	21日	照明器具 (発電機・蓄電器・懐中電灯・ろうそくなど) 煮炊き器具 (飯盒・なべ・カセットコンロ・カマドなど)と 燃料 (カセットガス・灯油・薪・乾電池など) 冷暖房器具 (ストーブ・扇子など)
	最大	80日	
上水道	平均	35日	飲料水 (1週間分) 洗浄 (使い捨て食器など) 洗濯 (使い捨て下着など) 風呂 (水を使わない歯磨き・シャンプー・体拭きシートなど)
	最大	162日	
下水道	平均	34日	携帯トイレ用品 (凝固消臭剤と便袋) 1人1日8セット×35日=280セット トイレトーパー
	最大	123日	
ガス	平均	47日	電気と同様
	最大	104日	
食料品搬送(救援物資)	5日以上		最低 1週間 分の備蓄
情報通信(ラジオ・スマホなど)	基地局の電源消滅 3H~24H		モバイルバッテリーなど (家庭電源復旧まで3週間以上)
ガソリン・灯油	ガソリンスタンド待ち時間 5時間超		車のガソリンは半分にできれば 給油 ・ガソリンの 備蓄 (赤缶・ガソリンの缶詰など)
医療機構	崩壊		感染症対策品・ケガの応急処置品・持病の薬品などの備え
警察機構	弱体化によるATMあらし・空き巣・性犯罪など		地域の 自警団 の編成・各家庭での 防犯用品 (サスマタ・催涙スプレー・スタンガンなど)の備え・鍵の二重ロックなど
金融機関	混乱・ATM崩壊		現金の保管など

トイレが使えない!

避難所には水・食べ物はない!



行政は1週間分の食糧備蓄を奨励していますが、東南海地震が起きた場合は東京・大阪・名古屋などの大都市圏が含まれており地方への救援物資は1週間で届くとは思われません。東日本大震災のデータにおいても物資の搬送は5日かかっています。

行政に頼らず、まず自身で考え備えて下さい。



我が家の防災対策 防災リーダー 橋本

防災対策の考え方

幼児・小学生が同居の二世帯住宅なので、
自宅避難ができるようにしたいと考えています。

○安心出来る住宅

①就寝時の安全確保

寝室に転倒しやすい家具をなくす。
枕元に懐中電灯 ベット下に運動靴・防寒シート
ホイッスル・軍手・ラジオ・上着を常備



② 台所の食器棚は

設置の時に、転倒防止対策を行いました。



○インフラ(電気・ガス・水道)の停止に備え

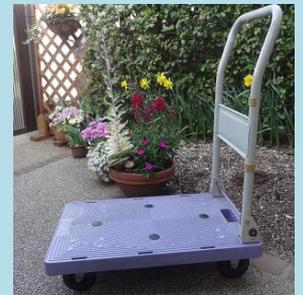
① ソーラー発電中は電源切替により一部電力は確保出来ます。ただし雨天・夜間は使用できません。

②ガスの停止には、カセットコンロ・ボンベを常備

また、石油ストーブ・暖房用石油を保存

カセットコンロに圧力鍋を使用すると、調理時間が短縮されガスの節約になります。

③断水には、飲料水を家族6人で三日分を目安に50リットル保存 ← 今後 1週間分以上に増量予定
給水車より給水を受ける事に備え、アウトドア用ポリタンクやビニール袋を常備
それらを運ぶ台車も準備しています。



○非常時の蓄え

レトルト食品・缶詰などを約1週間分を保存し、
使用した分を補充する(ローリングストック)

防災備品を備える

ブルーシート・ロープ・防寒シート・雨具・簡易トイレ
軍手・ボール

